

植物多様性センターの「マメヅタの孢子葉」

伊豆諸島ゾーンと武蔵野ゾーンの間、大きなエンジュの樹洞にオオタニワタリとマメヅタを植えています。マメヅタは、山地の湿り気のある岩壁や樹木の幹などに、這って成長する着生シダです。学習園に植えたマメヅタはまだ小さく、孢子葉は出ていませんが、鉢植えで管理した株にたくさん孢子葉がつかまりましたので、情報館でしばらく展示します。ルーペも用意しましたので、観察してみてください。



栄養葉はマメヅタの名前の通り直径1~2cmで豆のように丸い



栄養葉の間から細長い孢子葉を伸ばしたところ



孢子葉の裏に、2列にびっしりついた孢子嚢



山地の樹木の幹に一面に着生する様子